

令和元年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市中心身障害者ふれあいの家		
指定管理者	団体名	特定非営利活動法人 アックス工房	
	代表者	理事長 三上 十喜雄	
	所在地	むつ市金曲三丁目6番11号	
指定期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日（3年間）		
指定管理業務の概要	1. 心身障害者の生きがいと自立を目指す活動の支援に関すること 2. 心身障害者の共同作業、学習及び集会の場の提供に関すること 3. 心身障害者、その家族等の交流の場の提供に関すること 4. 心身障害者の福祉の増進及び社会活動の促進を図るために必要な業務 5. 施設、設備の維持管理に関すること 6. その他ふれあいの家の管理に関すること		

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	2,484	2,484	0
うち利用料金額	0	0	0
うち指定管理料	2,484	2,484	0
支出合計(B)	2,484	2,484	0
うち人件費	1,820	1,987	167
収支差(A-B)	0	0	0
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	人件費の賃金引き上げ対応と、夜間や土日、祝日の利用が多かったため。		

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
	作業室	100人	940人	840人
	集会室	1,000人	939人	▲61人
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有・無） 定期的に利用されている団体が多く、特に苦情等は聞かれない。				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収入	支出

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：要改善）

評価基準 A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	A
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	—	—
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	—	—
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	A	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

管理運営を適正に行える人員配置、利用者の安全管理に配慮した施設運営に努めた。
 近年の異常気象等の状況に対応し、利用者の安全に配慮した施設運営に努めた。
 施設の老朽化が進んでいるため、設備や備品等の点検・手入れ等を丁寧に行うと共に、除草作業などにも積極的に取り組んだ。
 利用者の利便性向上のため、卓球台を設置したことで利用率が大幅に増加した。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

施設運営上のトラブルや苦情はなく、適正な管理運営がなされていた。
 施設利用面においては、利用者のニーズに合わせ、作業室の整備を行った結果、利用者数の増加につながっている。
 災害対策面では、台風時において積極的に市と連携し情報収集に努めることで、いち早く利用予定者へ周知・注意喚起をするなどの対応をしている。